

AJU麦の会&麦の里ニュース

第 121 号 令和3(2021)年10月5日発行

定価 100 円



発行所・東海身体障害者団体定期刊行物協会

中区丸の内三ー六ー四三

みこころセンター4F

定価一〇〇円

令和三年

十月五日(毎週火曜日発行)

AJU通巻

増刊第一四三三三号

昭和五十四年八月一日第三種郵便物承認

～ 8月7日(土)の例会活動いろいろ～

☆スイカ割り (Aグループ)

テーマは「スイカを割って食べる」ということですが、それだけではもったいないので「縁日風にゲームをしよう」となりました。

仲間たちと話し合って「①魚釣り②射的③カエル飛ばし」をすることになりました。折り紙で魚を作ったり、割りばしで鉄砲を作ったり、牛乳パックと輪ゴムでカエルを作ったりしました。その中でもカエル飛ばしは、飛んだ高さを競うゲームにしたこともあり、仲間たちは楽しく遊びました。でもでも、やっぱり「スイカ割り」！！一通り、ゲームをした後は、念願のスイカを割りました。タオルで目隠しをして、10回回って、フラフラ～ドンッ！！見事に割れました。美味しそうに仲間たちがスイカを食べている姿を見て、またやりたいなと思いました。(むら)



☆水遊び (Bグループ)



仲間達のやりたいという願いが叶い、雨予報から見事に晴れました。

空気を入れて膨らますプールをいくつか用意して、水鉄砲や水風船、ビーチボールや魚釣りゲーム等の用意をしました。

じょうろに水を入れてシャワーの様に、水の感触を楽しみ、水風船やビーチボールを投げ合い、水鉄砲の中に仲間が自分で水を入れて、スタッフを的にして楽しそうでした。2階のテラスからは、滝のように大量の水を一度に流すと、1階にいる仲間達は大喜び。

ゆっくり過ごしたい仲間は、プールの中で魚釣りゲームを楽しみました。

プールの中で横になり、リラックスした表情や笑顔が見られ、普段あまり笑わない仲間もこのプール遊びで、声を出して笑って過ごしていました。

今回のプール遊びで、仲間たちはとても喜んで、楽しかったと言ってくれました。またやりたいという希望もあったので、来年も計画したいと思います。(山口)

☆水遊び (Rグループ)

「今年も水遊びをしよう！」と、テラスにテントを立てて暑さ対策をして、水遊びをしました。朝から水を溜めて、いざスタート！と思ったら、意外と水が冷たい・・・急いでお湯もいれて、ようやく入っても大丈夫な温度に（笑）最初は、みんな水の温度にびっくりしていましたが、だんだんと慣れて、気持ちよさそうに♥水鉄砲に、水風船など、いろいろなおもちゃを用意しました。みんな人に水をかける時には、“やってやった！”とニヤッと小悪魔のような表情をしていました。ただ、やはりかけたら、かけられるのが当然・・・やられた分はやり返されて、今度は身体を小さく丸くしたり、怒ったりしていました（笑）プールがお気に入り、出てもまたプールの方に戻っていかうとする仲間もいたり♪それぞれのペースで心も身体もさっぱりしました！！



(やな)

～ 9月4日(土) 例会活動いろいろ ～

☆水遊び&かき氷 (Aグループ)

募金活動がなくなり、仲間たちの希望を聞いて「水遊び&かき氷」となりました。

1日例会ということで午前は作業、午後が活動ということで、仲間たちは午後を楽しみに作業も頑張っていました。そして、いよいよ本番！準備は、「水鉄砲作り」「シロップ作り」「水風船の用意」と分かれて取り組みました。そして、テラスに集合！！プールに入ったり、水鉄砲で水をかけあったりと仲間たちも職員も大はしゃぎ！！あっという間に時間が過ぎました。終了時間になっても、名残惜しそうな仲間がいました。それでも、この後は「かき氷」です。気持ちを切り替えて食堂に行き、かき氷機のスイッチをON！！ダーッと氷が削られて、出来上がり。シロップは2種類でカルピスといちご。いちごシロップは、いちごジャムを使って作りました。しっかり遊んだ後のかき氷は、格別でした。夏の終わりに楽しい活動ができました。仲間たちからは「またやりたい」と声があがっていました。

(むら)



☆盆踊り大会 (Bグループ)

毎年恒例、せともの祭りが今年もコロナで中止ということで、今年も募金活動は無くなってしまいました。とても残念でしたが、その代わりに取り組みとして、B組さんたちは盆踊り大会をしました!!

少し前から、曲目を絞って「炭坑節」「一休さん」「ドラえもん音頭」の3曲を練習しました。

当日は、午前中から、みんなで準備をすることにしました。①やぐらにつける提灯作り②射的的的作り(倒すと鈴が鳴ります)③ヨーヨー風船つりのヨーヨー作り。3つのグループに分かれてワイワイと楽しんで作ることが出来ました。2つのゲームを並べ、やぐらを設置。何となく、盆踊りの雰囲気が…?

午後は、みんなで準備したゲームをしたり、練習した曲を踊ったり、それぞれ楽しみ…最後はA組さんが作ってくれたカキ氷をおすそ分けしてもらいました♪みんな「お・い・し・い♥」と好評。夏のイベント、みんな楽しんでくれていたら嬉しいな。

内心は目の見えない仲間や車椅子の仲間、どうやってみんなで踊ろうかしら!?!と悩んでいたのですが、仲間たちはそれぞれ楽しく歌ったり、好きに身体を動かして、楽しんでくれている様子。ホッとひと安心。一番大事なことは『楽しく踊ること』だよな!と、改めて思いました。1日、ありがとうございました!! (大下)



☆カラオケ&水遊び (Rグループ)

午前中はカラオケ、午後は水遊びと盛りだくさんな活動でした。カラオケは部屋を暗くして、ミラーボールをつけて、ムードたっぷりにスタート! Tさんは、その雰囲気からドキドキして、テレビにくぎ付け。みんなの好きな曲を順番にかけて…人気だったのは、「サザエさん」「アブラハムには7人の子」「おどるポンポコリン」など。Cさんは曲によって、好きな曲とそうでない曲がはっきりしていて、好きな曲ではリズムを変えながらゆらゆら、終わるとごろん。Sさんは自分のリクエストした曲になると、ウトウトから急に目がぱっちり。意外だったのは、Gさん。カラオケ好き?なのか、どの曲でも、綺麗なロングトーンを響かせていました! 特に、楽しい童謡よりもゆったりした大人の曲の方がお好みのように、竹内まりやの「元気を出して」は惚れ惚れするほどでした♥



午後の水遊びは、浴槽に温水をはり、ボールをたくさん浮かべ、温水プール風。体調が心配な仲間は、足浴をしながらの参加でした。Nさんは、シャワーの音が聞こえると“ちょうだい!”と手を伸ばして、自分にかけては満面の笑み。みんな温水と浴槽に浮かんだボールに「あれ?なんだかいつもと違う…」と、水遊びともお風呂とも違う活動になんだか不思議そうでした。想像していた楽しくワイワイよりも、まったりした時間を過ごしました。次回はリベンジを!?! (やな)

～ 成年後見制度学習会 ～

麦の会の例会活動の一環として学習会を開催しています。今回は、8月例会の企画として、尾張東部権利擁護支援センター長の住田さんに来ていただいて、成年後見制度の勉強会を開きました。親亡き後の障害者の生活を考えるうえで大事な学習会であり、親御さんたちの関心も高く、20名を超える参加がありました。

ただ、麦の親御さん達にとっては、親亡き後の生活といっても、お金の管理の問題よりも、誰が面倒を見てくれるのか、病気になったらどうするのかといったことをまず心配する方が多く、例えば、365日開設のグループホームを整備するといった方向性の中で、その後の仲間達の年金の管理の問題などが改めて問題になってくるのだろうか、という感想が多くありました。職員としても、お金の問題とともに高齢になっていく仲間たちの生活の問題の切実さを、改めて認識する機会となりました。（稲）

下記は、親を代表して二名の方から原稿をいただきました。

成年後見人利用の話聞いて、いつか必ず自分の娘も利用しなければと思っています。親が年を重ね、娘の手伝いが出来なくなるそんな時が来る…まだ両親がお願い出来る。娘の将来の計画が、後見人の人と出来るうちに、利用したいと思いました。（町）

話を聞いたのに「本音でごめんなさい」

制度とは、私たちが社会で生活しやすくしてくれるための決め事です。その認識で、今回話を聞きましたが、そうではなさそうなんだというのが、率直な感想でした。成年後見制度は、意思表示の難しい人たちのために、彼らの権利と尊厳を守ることを目的とされているそうですが、純粹にそう考えられない人たちも多くいるのだと聞き、少々残念な思いもしました。先立つものは、ないよりあった方が良く、でもあればあったで、困ってしまう事例もあると話されました。やはりお金の問題は、欲という私情が絡むため、トラブルが発生するのだそうです。しかもそれは身内で発生するらしいです。なんとも複雑な話です。うちに限ってまさかと否定しつつ、そしてまだ先のことかなとも考えてしまいましたが、親亡き後の我が子も案じられ、どうすることが最善なのか、さてさて、もう暫く思案に暮れそうだと思ったのは、私一人ではなさそうな周囲の参加者の様子だと感じました。

しかし、それが分かっただけでも収穫であり、現状を詳しくお話ししてくださった講師の先生には感謝です。ありがとうございました。（河合みゆき）

～ 映画「夜明け前の子どもたち」を観て… ～

前にも見ていたのに、見えていなかった部分（場面）がたくさんあり、今回見て仲間の行動などが少し見えたように思いました。ナレーション、音楽等ちょっと暗くて、2時間見ていられるかなと思いましたが、いざ見てみると、あっという間に時間が過ぎていました。1部屋に大人数の仲間たちが生活を共にしていました。職員の数も少なく、仲間が仲間の食事の介助をしていました。この場面はビックリしてしまいました。

また鯉のぼりをみんなで上げる場面では、いつも横になっている仲間たちが、鯉のぼりを見ようと頑張って体を動かそうとしていました。できる可能性を1つでもいいので、可能にしてあげられるように一緒に取り組んでいきたいと思いました。

石運びの取り組みでも、始めの頃は笑顔が少なかった仲間達にも、何回か運んでいると、終わり頃には笑顔も見られるようになっていました。どの仕事の取り組みもそうですが、始めは何をしているのかな！？言いたげな表情が、少しずつ同じような仕事をするうちに「あ～！！この仕事ね」と言葉の出ない仲間も、顔の表情で何となくこんなことを考えているのかと、自分なりに思っていると楽しくなってきます。何か行動を起こすのはとても難しい事ですが、これからも麦の仲間と共に、試行錯誤しながら、色々なことに挑戦していけたらと思います。(N)

「夜明け前の子どもたち」を観るのは初めてで、観る前は2時間という時間を聞いて長いと感じましたが、見始めると考えさせられる事が多く、あっという間に時間が経っていました。色んな所に行ってしまう、安全の確保が出来ないが故に、紐に縛られて行動を制限される子ども、重度心身障害を抱える子どもたちとプールを作るという試み、子どもたち同士の関わりによる出来ることの新たな発見、職員の過酷な労働状況、辞めていく職員に対して“職員がいないと勉強できなくなってしまう”という子どもの悲痛な叫びなど、衝撃を受けるシーンが沢山ありました。

紐で縛り安全を確保するために、自由や可能性を制限するやり方が良いも悪いも私にはわかりません。しかし、プールを作るのにどうしたら子どもたちが石を運んでくれるか、職員が試行錯誤して、それでも思ったようには中々いかなかったりする現状がある一方、子ども同士で遊んでいるところから「こんな事できるんだ！」という発見があったりする。どんなことがきっかけになるかはわからないけど、まだ知らないだけで沢山の可能性を秘めているのに、それを見つけれないままなのは勿体ないと思いました。そう考える中で、今まで私は間違った先入観を持っていたことに気が付きました。私は麦の里で働き始めてから、仲間と仕事をする際に、仲間は今できる事を聞いて、出来ないことをサポートしようと働いていました。無意識に今できる事が仲間のできるmaxの事だと思っていたのです。ですが「夜明け前の子どもたち」を観て、仲間たちにはまだまだ知らない、もしかしたら今は出来ないけど、これからはその可能性と一緒に見つけるサポートができるような働き方をしたいと思っています。

職員の労働環境や、人材不足などの問題も取り上げられていて決して明るいだけの作品ではありませんでしたが、私はこの作品を通して得られた気づきを大切に、これからも仲間と楽しく、新たな発見をしていきたいです。(廣瀬)



新人仲間紹介

やまだ ゆうし
山田有志さん

学生時代に初めて会ったときは、多動で、集団活動に入れなくて、外への飛び出しもあるとの事でした。それが去年久しぶりに会った時には、変わらぬ視線で「目が合う」のです。難しい自閉症の方と聞いていましたが、目を合わせた時の彼の瞳は「まっすぐ」で、合わせないように逸らすという事もせず、こちらを見つめ返してくれました。その目力に、とても彼の力を感じました。

麦の里に通い1年半。最初は、彼にとって何が良いのか手探りで、有志さんに対して職員2名配置。ひたすら1日中散歩をするという取り組みでした。それが今では、職員1名のみ。徐々に他の仲間と同じグループで、作業に取り組むことが出来るようになっていきます。朝の会や帰りの会にも参加して、ずいぶん慣れた印象です。スキンシップを求めてくることもあり、チャーミングな面もあります。自己主張は強いけれど、職員との対話で折れてくれることも増えました。また一方で例会は、皆の輪の中で一緒に楽しそうに活動をしています。

麦の里一番の力持ちで、他の仲間が1本運ぶ米ぬかも、1束運ぶダンボールの大きな束も、軽々と、何個もいっぺんに運んでしまいます。廃品の量が多くて大変な外仕事では「有志さんがいれば大丈夫！」という声も多方からあがり、とても頼りになる仲間の1人として働いています。

好きなことは、食べることにドライブ。「ジャニーズコンサート等で流れる激しい曲やライブの映像」が好きという噂も。嬉しい時には「あっちゃー！！」と驚くほど大きな声をあげて、素敵なお顔をを見せています！

彼は、きっと「集団が嫌い」なのではなく「不安」なのだと思います。だから時間を掛けて、少しでも「長く居られる、安心できる場所」を増やしていけたらと、願っています。

有志は33才で重度の知的障害のある自閉症です。麦の里に昨年3月からお世話になっています。私の仕事の都合でショートステイを中心に利用してきましたが、コロナの影響で主たる受入施設のショートが中止。生活の見通しがたたなくなりました。その後何とか麦の里にお願いをして現在週1回と月1回の例会の日に通所しています。

初めのうちは作業実習で空き缶つぶしをしたことのある缶部屋にしか入れず、10分位で部屋から飛び出し車に乗ろうとしていました。なんで有志は麦の中に居られないのだろう…。その後職員さんの頑張りで少しずつ居られる時間を伸ばして、現在は仕事をして麦の里で1日過ごせるように。そしてみんなと一緒に給食を食べて、みなさんから声をかけてもらっています。本当に夢のようで感無量です。

養護学校の時に年に一回劇を発表する「学習発表会」がありました。有志は白衣を着たお医者さんの役。練習は苦手ですが、当日は見事に患者さんに大きな注射をブスッと命中。先生に『本番に強い男』と誉められました。そしてもうひとつよく言われたのが『何もできなさそうだけど、意外とできるね』。親バカですが、有志はなかなか味のある面白い子です。深く関わって頂けると新たな一面が発見できるかもしれません。他害もありご迷惑をおかけしますが、職員仲間の皆さん、よろしくお願い致します。(母)



仲間紹介

きくち まこと

菊池 誠さん

出会った頃は、幼い子供が同じ質問を何度も何度も周りの大人に聴いて、確かめようとする、発達段階で2歳～3歳の感じでしたが、長い月日の中で、大きく成長。ただ同じ答えを聞きたくて繰り返し質問する子供とは違って、きちんと相手とのやり取りになっていて、その上で自分の確信を確かめる為に聴いているのだと見て取れます。

どんな天候でも、元気に外に出かけていき夏は真っ黒、冬は鼻を赤くして帰ってきます。テラスでの日向ぼっこが、昼食後の毎日の楽しみ。明暗や赤・黄などの鮮やかな色はある程度分かるようですが、基本的には「視覚障害」の為、ほとんど見えていない方です。ラジオが大好きで、ボキャブラリーが豊富。音情報にはとても敏感で、周囲の人の動きにもよく注意を払っています。朝のラジオ体操は、平日1回、休日には2回もするほどで、毎朝の日課になっています。漫才や冗談、ブラックジョークなんかもお手の物。歌謡曲も詳しくて、よく誰かと一緒に歌っています。

“分かってほしい”という気持ちも強く、“僕はすぐ怒っちゃうんだ”、“動けなくなっちゃうんだ”と話していたことがあり、もっと誠さんの気持ちを汲み取らないといけないと痛感しました。私たち健常者は『目と目で確認』しますが、目で確認できない彼は、言葉だけではなく、相手の声のトーンや繰り返しの中で【確証】を得ようとしているんだと強く感じます。だから、自分の中で葛藤=迷い=不安がある時、どちらかひとつに決めなくてはならない時、説明する職員のちょっとした変化・抑揚を敏感に感じて、余計に決められない。迷い続けている「視覚障害者」の彼に、ゆっくり選んでもらう時間の余裕を、麦の里では中々作ってあげることが出来ません。それでも周囲の職員たちに合わせて、見えていない事も何のその、元気よく働いています。その健気さと頑張りを心から尊敬しています。



新人職員紹介

ひびの あこ

日比野 亜子さん

生まれは大阪、育ちは岐阜県。高校3年生の夏、高校を退学して1人当てもないままニュージーランドへ。マオリ族の牧師さんの元で英語を習い、約1年半を過ごしましたが、発病して手術のため帰国。

これまでの経歴としては障害者の学業支援、高齢者の回想法センター、自閉症センターを経験。家族は6人で、ご主人と4人の子供たち。座右の銘は「哲学者であれ。しかしその哲学の只中においてなお、人間であれ。」D.V.ヒュームの言葉。なりたい人物像としては、一つのこだわりを極めた人。

日比野さんは現在、へそくりで買った6畳のプレハブ小屋を家の前に置いて、そこを拠点に好きなものだけを置いて、一人生活。老後は日曜の早朝にハーブを弾くことを目標とし、今年は通信で大学院に通いたいと語っています。精神学が大好きな日比野さんは、知的の方にも関心を持って、現在も学ぶことをやめず想いのままに人生を突き進んでいます。みんなの事を観察し、内面や情緒を分析。関わり方を日々模索しているその熱心さには頭が下がります。

職員のつづやき

麦の里で働き始めて、早17年が過ぎてしまいました。早い！！自分自身は気持ちだけはまだまだ若い気でいましたが、あっという間に年齢は重ねるんだなあ〜…と実感しています（笑）

仲間も職員も17年の間に人数がずいぶん増えました。私が入社したころは、仲間は20名もいなくて、スタッフもまだ10名…。今は仲間41名！スタッフも50名ほど！！

最近、自分が入社した頃をよく思い出します。何も分からないことも多く、上司や先輩たちにいろいろ迷惑も掛けてきました。そのたびにフォローしてもらい、話もたくさん聞いてもらっていました。

その頃のスタッフは年齢が近かったこともあり、家庭を持つ人も少なかったこともあってか、語り合う時間がたくさんありました。悩んでること、困ったこと、愚痴、それだけではなく、良かったこと、楽しかったこと…たくさん話したなあ…と思います。それもあってか、「よし！明日も頑張ろう！！」と自分の明日のエネルギーに繋がっていました。

今は…あんまり自分自身に余裕が持てていません…。気が付くとあっという間に夕方で、1週間が終わっています。他のスタッフと、いろいろと語り合っている時間ありません。今はスタッフも増え、それぞれ家庭があり、なおかつ、このコロナ禍で「ちょっとご飯でも食べに行こうか」ということもできません…仕方のないことかもしれません。それでも、何か違った形で他のスタッフと語り合う場は設けられないだろうか？

みんな「こんな取り組みをしてみたい！」「ここ工夫してみたい！」など、それぞれの考えや熱い思いを持っていて、だけど、意見や考えを交わす機会がなくて、お互いすれ違っていき…毎日が忙しくて、その日いっぱいいっぱいになっていて、なんだか勿体ないな…と思います。余裕をもてないと、相手のことも思いやることできないし、自分自身も大事にできなくなります。やっぱり、とっても勿体ない！

先日、何回目になるか分からない「夜明け前の子どもたち」を観ました。はじめの頃には分からなかった、この映画の良さが少しずつ分かってきたように思います。みんながどこに出歩いてしまうか分からないナベちゃんに繋がれたヒモについて討論をする場面、活動についてこれでいいのか？語り合う場面、たくさん“話し合い”をしている場面が出てきました。「園長には分からないでしょうけど…現場はこんなに大変なんです！」と、訴えているシーンが出てきたりして、ああ…今の麦の里に足りないものだな…と思いました。麦の里も、良い取り組みも、困ってることも、悩んでることも…！！みんなが話しやすい雰囲気作りをしていきたいです。

わたし自身はみんなとしゃべれてる？そして、みんなが話しかけやすい余裕が持てる？その余裕はどういうふうに作っていけばいいのか。分からないまま、毎日、混沌としています。（大下）

アグネスコラム

友達って何だろう。最近分からなくなってしまう。だから友人とのツーショット写真のデータを集めて、A4サイズの紙に貼って、ラミネート加工してみました。そしたら何かわかるかもって。無くしたデータもありますが、結構ありました。2枚じゃ収まらなかったけど、写真は30枚で、30人ぐらい。あー、皆大事な友達だって。写真から思い出が溢れて、この時の気持ちを思い出しました。連絡取ってないけど元気かな。そんなことを思っていたら、友人から続けて連絡がありました。「会えないから荷物を送っといた」とか、「今度の土曜どう？」って。想いはきっと届くから、片思いじゃない。友達っていいな！あー少し楽になった。あなたにとって“友達”とは、どんな存在ですか。

～ 七色の麦の日常 ～

★ 花火大会

8月2日七麦で花火大会をしました！前の週に仲間3人と花火を買いに行きましたが、店内は風鈴とセミの鳴き声が流れて夏の風情がたっぷり。セミの鳴き声が大好きなAさんはとてもうれしそう。Cさんはなぜか打ち上げ花火が気になる様子でした。Sさんはたくさんありすぎる花火にどれにしようか迷っていました。結局長く楽しめる手持ち花火を購入♪「花火やろうね～」とみんな本番を楽しみにしていました。



そして当日、夕食の後いよいよ花火大会です。Nさんは火種のロウソクを職員と準備。Nさんの好きそうな作業です。楽しそうに準備してくれました。そしてNさんが気になっていた花火に火をつけいよいよ花火大会の開始です！Aさんは大好きな職員と一緒にやろうと誘って「きれい～」と楽しそう。KさんもMさんも職員と一緒に手持ち花火を楽しみました。Mさんは花火の光の方に近寄ろうとしたり？、Kさんも自分で持っている花火をじ～っと見つめたり…。各々花火を楽しんでいる様子でした。前回の花火ではベランダから見ていたSさんは今回も当初は「怖いからベランダから見る」と言っていたのですが、楽しい雰囲気誘われてか参加してくれました。「アツツイ！」と言いながらも最後まで参加できました。他の仲間も花火を囲んで見えています。その中でNさんは忙しく火の番をしながら花火をしていました。

障害があっても眩しい光や音と煙の匂いで花火を楽しんでくれたらと。七麦での夏の思い出のひとつになったらいいなあと思います。煙によるちょっとしたハプニングもありましたが仲間も職員も久しぶりに花火が出来て楽しかったです。(abono)

公益財団法人 JKA (競輪) 様から補助金をいただいて コロナ対策としてオゾン発生器を整備しました！



麦の里・七色の麦では、重症心身障害者をはじめ強度行動障害者などに対し身体的な接触がなければ支援できない環境となっています。また、医療的ケアが必要な方もおり、新型コロナウイルス蔓延以前からインフルエンザ感染などの対応が必要でした。新型コロナウイルス蔓延によりこれまで以上に対策を実施していますが、仲間と職員の接触を軽減する手立てはなく、感染が心配されていました。今回公益財団法人 JKA (競輪) 様の補助事業により有人環境下でオゾンを発生できる機器を15台導入することができました。オゾンが新型コロナウイルスを不活性化することができることは、藤田医科大学や奈良県立医大の実験データで実証済みです。非接触対応ができない環境下で空間そのものの除菌ができかつ衣類やドアノブ、テーブル、椅子などが除菌できるので安心です。麦の里・七色の麦一同感謝しております。ありがとうございました。

お礼のコーナー 〈敬称略 順不同〉

◆◆麦の会の会員・賛助会員になっていただきました◆◆

会員更新： 加藤洋介 河合浩輝 岩切翼

賛助会員更新： 岩外雄戈

◆◆社会福祉法人麦 及び 施設麦の里へ寄付金&物品をいただきました◆◆

名古屋学院大学丸善 横山節子 奥村ゴム 瀬戸身障会 鬼頭 職員有志一同 匿名希望者多数

—お詫びとお断り—

賛助会員の申し込み、バザー用品、また寄付金などのご協力を頂いた方については、事務処理の都合上掲載が次号になる場合があります。申し訳ございませんが、御了承下さい。(9月10日現在)

☆ お楽しみコーナー ☆

★クロスワードパズル

テーマは「スポーツ」!!

	1		8	9
2	C	B		A
	3			
4			7	
	5			D

☆キーワード☆A~Dをつなげてみてね!

A B C D

ヨコのヒント

1. チームごとに赤と青の玉を投げて、白い玉の的との距離を競う障害者スポーツは?
2. ゴルフで、決められた打数ぴったりで、カップインすることを何と言う?
3. 2016年の夏季オリンピックの略称は? 「●●オリンピック」
4. 1位の人のメダルの色は?
5. ボールをとるときに、はめる皮製の道具は?
6. 「スポーツの☆☆」「読書の☆☆」「芸術の☆☆」☆☆に共通する季節は?
7. ポールを使ってバーを飛び越え、その高さを競う競技は? 「◆◆高跳び」

タテのヒント

1. 1回で全てのピンを倒すことをストライクと言う、10本のピンを倒すスポーツは?
8. スポーツをする選手を、ダンスをして応援する人のこと。「○○リーダー」
9. 9人制で、甲子園を目指している学校の部活動は?

今後の予定

- | | |
|---------|-------------------------|
| 10月 9日 | 麦の会 定例会 |
| 10月 10日 | 山口ふれあい朝市出店 |
| 10月 11日 | 床屋デー
イエローレシートキャンペーン |
| 10月 26日 | 北山地区廃品回収予定 |
| 10月 29日 | きょうされん大会 (リモート)
仲間参加 |
| 10月 30日 | 麦の会 役員会 |
| 11月 6日 | 成人を祝う会 |
| 11月 11日 | イエローレシートキャンペーン |
| 11月 14日 | 山口ふれあい朝市出店予定 |
| 11月 27日 | 麦の会 役員会 |
| 11月 30日 | 北山地区廃品回収予定 |

2021年冬の物資販売に

ご協力をお願いします！

- 1次×切 11/2(火) (お届けは11/18～)
2次×切 11/22(月) (お届けは12/6～)

2021年夏の物資販売のお礼

258名の方にご協力いただきました。
売上：1,777,110円
ありがとうございました！！

障害者とともに歩む	麦の会
生活介護事業	麦の里
共同生活援助事業	七色の麦

〒480-1214 愛知県瀬戸市上品野町1354-12
電話(0561)41-4124/FAX(0561)41-3766
ホームページ: <https://www.mugisato.or.jp/>
Mail : nakamanowa@mugisato.or.jp

お楽しみコーナーの答え

121号

クロスワードパズル

キーワード:「キーパー」

EMボカシを天日干し中 ☀
早く乾くように、
混ぜ混ぜ～



編・集・後・記

今回の例会は、夏ならではの活動が盛りだくさん！！
普段とは違う仲間の表情が見れて、職員としても毎回楽しいです！
今回の例会は仲間にとって、
楽しいものになったかなと
文章を打ちながら1人反省会です…